

成長が見込まれるベトナム航空旅客市場

旅行先として、ベトナムの人気の高まっている。トリップアドバイザーの「口コミで選ぶ世界の人気観光地ランキング 2019」では 15 位にハノイ、JATA の「日本人が選ぶ夏休みの海外旅行先 2019」では 5 位にベトナム（前年 6 位）が入っている。

ベトナム人の旅行ニーズも増加しており、国際空港評議会（ACI）によると、2018 年、国内旅客数も含めた年間総旅客数は前年比 12.9% 増の 1 億 600 万人、貨物量は同 7.7% 増の約 150 万トンであり、インド、サウジアラビア、UAE を抑え、2022 年まで年 7.8% 増となる世界で最も成長率が高い航空旅客市場と予測されている。

高まる需要に対応するため、2018 年、政府は「2030 年までのビジョンを含む 2020 年に向けた航空運輸開発計画」を承認した。この計画に沿って、交通運輸省は 2030 年までに約 154 億米ドルを投資、航空機を 400 機超へと増やし、また空港の拡張・新設、2030 年までに計 28 空港（年間収容旅客数 3 億 800 万人）としたい計画だ。

成長市場に対応する航空会社間の競争も激化していくと思われる。現在運航している航空会社は、ベトナム航空、ベトジェットエア、ジェットスター・パシフィック航空、ベトナムエアサービス、2019 年 1 月に就航したバンブー・エアウェイズ（FLC グループ）の 5 社。国内線市場はベトナム航空、ベトジェットエアが拮抗しており、2 社で 8 割超を占めているものの、直近にビンパール航空（ビングループ）、ベトラベル航空等の新規参入が予定されており、競争は激化しそうだ。

国際線も同様に海外キャリアの新規参入が増えている。対抗すべく、フラッグ・キャリアであるベトナム航空は今年中に航空機を 101 機まで増やし、近い将来アメリカへの直行便を就航、ベトジェットエアは国内線を 38 から 42 路線へ、国際線を 44 から 60 路線へと増やす予定となる。

年間約 76.7 億米ドルと推定されているベトナム航空旅客市場には、日本企業も参入している。2016 年には全日本空輸（ANA）がベトナム航空の株式約 8.8% を約 1 億 900 万ドルで取得した。日本航空（JAL）は元々、ベトナム航空とコードシェアを実施していたが、これを受け、解消、軌道修正を迫られ、2017 年にはベトジェットエアとの業務提携を開始している。同市場はここ 10 年間、大きく変化してきたが、日本企業も巻き込んだ今後も見逃せない動きの激しい市場となりそうだ。

参照：

1. [Top25 destinations-World](#)
2. [Top25 destinations-World](#)
3. [Ranking of popular destinations for summer vacation by travel agency staff](#)
4. [World Airport Traffic Report](#)
5. [Residual growth for the aviation industry in 2019](#)



6. [Business British Group Vietnam](#)
7. [Vietnam Country Commercial Guide](#)
8. [Vietnam aviation authority supports Vingroup's airline project](#)
9. [Foreign investors to get easier way into Vietnam's aviation industry](#)
10. [ANA HOLDINGS and Vietnam Airlines Conclude Final Contract for Business and Capital Partnership](#)
11. [Aviation quandary as airlines wait to enter Vietnamese market](#)

